

平和な日常

甲斐市立双葉中学校三年 平澤 夏帆

私はいじめなんて無縁の世界だと思っていました。友達ともたくさん話して、遊んで、何気なく、毎日楽しい日々を過ごしていました。しかし、ある日の出来事から、私も辛い時期を体験しました。

その日、私はいつもと同じように、元気に朝を迎えました。そして、学校でいつも通り、

「おはよう。」

と言いました。しかしあいさつは返ってきませんでした。私は相手に聞こえていなかった、と捉えることにしました。まだ関係が崩れているとは思っていませんでした。それが始まりでした。その後は集団での悪口や無視。私は胸が締めつけられるほど、苦しい毎日を過ごしました。ついに私は、耐えられなくなり、友達に相談しました。その友達は真剣に話を聞いてくれました。今まで誰かに相談したい気持ちはありましたが、また何か言われたらどうしよう、という不安が勝り、なかなか話すことができませんでした。声に出したらスッキリすると思いましたが、まだ苦しいままでした。いじめということに気付いた日の帰り道は、いつもより暗く感じました。家について玄関を開けると、

「おかえり。」

と言う母の声が聞こえてきました。それを聞いた途端、安心と悲しみで胸がいっぱいになりました。母に何と伝えるか考えましたが、私は思っていたことを全部話すことにしました。母は真剣な眼差しで話を聞き、寄り添ってくれました。母は私に、

「ちゃんと先生に相談しなさい。」

と言いました。確かにそのまま相談しないのでは、いつ自分の限界がくるかわからないし、この苦しさを抱え続けるのは無理だと思いました。私は相談して改めて分かったことがあります。それは、家という場所は自分の心の支えになる場所だということです。この日以降にも、たくさんのことを考えました。まず、とても不思議に思ったことは、なぜ、いじめにあったのかということです。私はみんなと仲良く話したり、遊んだりできていたにもかかわらず、なぜこうなったのか。自分に思いあたることが無かったからです。急に起こった出来事だったので、とても不安になりました。また、学校では周りの視線が刺さ

るように感じて、学校で過ごす時間が早く過ぎてほしいと願うばかりでした。そしてついに私は先生に相談することにしました。その時の私は震えが止まりませんでした。すると、一人の友達が寄ってきてくれました。

「大丈夫。」

そう声をかけてくれました。私は落ち着き、今まで悩んできた気持ちを全部吐き出すことができました。その後は、元通りに戻れました。日常生活でも支障がでない日々を過ごすことができました。私はあの時、声をかけてもらえなければ、落ち着いて話すことができなかつたと思っています。だからその友達にはとても感謝しています。その後も六回ほど、いじめを受けていると感じたことがありましたが、今では、辛い思いや苦しい思いはしていません。あの時、友達や母、先生に相談していなかったら、私は、とてもつまらない中学校生活をおくっていたと思います。いろいろなことがありましたが、友達や大人に相談してきたからこそ、辛い時を乗り越えることができたのだと思っています。

毎年多くの人たちがいじめにあい、不登校になったり、いじめに耐えきれずに、自殺したりする人も増えています。誰かに相談したくてもできないのが現実だと思います。だから誰かに相談できる私はとても幸せなのだと思います。私には、相談に乗ってくれる人や、話を聞いてくれる人、会話を楽しめる相手がたくさんいます。それは些細なことで、あたりまえだと考えている人が多いと思いますが、実はそうではないということに私は改めて気付くことができました。辛い、悲しい、苦しいと思っているなら、まず誰かに相談してみることです。きっと誰かが寄り添い助けてくれます。何も言わなければ何も始まりません。助けて、と言うから初めて、誰かが助けてくれます。勇気をふりしぼり、話してみることで私は変わったのかなと思います。私は、毎日がとても楽しくなりました。学校はこんなにも楽しいと、改めて気付くことができ、他の人の優しさにも気付くことができました。いじめに悩む人に、心から伝えたいです。誰かに相談すると、日常が楽しくなります。困っているならまず、誰かに相談してみてください。